
ブラウンライン ～空から舞い降りた天使（プレゼント）～

どこかの天使

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ブラウンライン　　く空から舞い降りた天使　　プレゼント

【Nコード】

N8074F

【作者名】

どこかの天使

【あらすじ】

サンタにお願いした彼氏とはんでもない問題を抱えていた。

クリスマスの憂鬱（前書き）

試作に過ぎません

軌道に乗ればいいのですが

初めてですからね

女性視点で描くのは

連載を停止する可能性もあります

この小説の舞台はアメリカ・シカゴです

主人公のメアリーは彼が居ないことに苛立ちを隠せません。

彼女の職はシカゴ市交通局ブラウンラインの運転手です。

クリスマスの憂鬱

12月24日 8時丁度、

シカゴ市交通局ブラウンライン・・・

「はぁ〜」車内にため息が漏れる

周りはクリスマス一色だ・・・

高架橋の下を見れば彼氏が出来た女がドレスを買って貰っている。

羨ましい、羨ましい。でもなんかとてつもなく醜い。

まあ自分もあなることを夢みてたなぁ〜

私って、不細工ともデブとも言われてないのになぁ

まあ、普通の女があ。

「はぁ〜」 車内にため息がまたこぼれた

と思えば、終点のアナウンスの時間・・・

「本日はシカゴ市交通局ブラウンラインをご利用いただきありがとうございました。御座いました。」

客が出た後、運転室のドアを閉める。

待合室まで行く、もうヘトヘトだった。

疲れる事をもうしたくなっていた。

ロッカールームで支度を整えて仕事を終えるところだ

「おい！メアリー、駅長室まで・」

スピーカーから鳴る音。

しかも自分あて

「メアリー！逃げたら首だぞ首！」

（またかよ）私は仕方なく駅長室まで歩く

「メアリー君。君は何度、制限速度超過をしたとおもってるんだ。」

「次やったら、廃材レールでカリフォルニア巻にしてやるからな！」

説教の後、私は帰路に付いた

周りにはプレゼントを貰う子供と妻、

私は

「サンタさんが居るならば・・・私に彼を下さい。美人で大人っぽい、最高の彼を・・・」

と独り言のように呟いた。

「まあ条件がそろつ彼なんていないか・・・」、「

クリスマスの憂鬱（後書き）

次回予告

「彼が落っこちてきた」

サンタは彼女に条件のそろった彼をプレゼントします。

しかし

ひとつ、重大なミスをしてしまったのです

（全くの純愛では有りませんので）

彼が落っこちて来た（前書き）

純愛ではなく

だいたいが彼の転生のハプニングです

嫌いな方は絶対に読まないこと！

彼が落っこちて来た

メアリーは家の玄関をガチャリと開ける

「さてと・・・寝るか〜な〜」

彼女は苛立ちをこまかすように

深い眠りに入る

次日 0:00

「ボタンーメキメキーボトン。」

私は何かと思い飛び起きる。

天井にはぼっかり穴が空き、大きな棺桶のような物がある。

なにかと思い、棺桶を覗いてみる。

「女性だ・・・」

まさか！プレゼントの条件は・・・

美人、大人っぽい、 彼氏・・・ あれっ、この人、上から下まで
男物だ

でも、やはり顔は女の子

それに顔は日本人かな？・・・

「あつ、夢か・・・」

そつと部屋を眺めると・・・

「棺桶・・・?!」

まずっ！このままじゃ正夢になる

でも、気になって開けてみる。

見た瞬間、目に手を当てた。

「夢と同じ・・・」

「あつ！すみませ〜ん起きて下さい！」

メアリーは起こして事情を聞きたくなり、

棺桶の彼女、いや彼氏を揺さぶる。

「はあ〜ふうあ〜」

「酔っ払っちゃったよ、水うう〜」

彼氏は高い声で話はじめる

「あなた・・・どちら様で」

水を汲んできた後、話し始める

「こつちが聞きたいよ。お姉さん」

「あれっ、俺っち、こんな声、高かったっけ」

「で・・・あなたはどこから来たの」

なにしろ・・・空から落ちて来たのだから

「43回有馬記念からかな！賭で負けてねえ酒で酔いつぶれたのさ」

この女、実におかしい

ここはシカゴだぞ・・・

日本の競馬場から来たとは

それに中身は男物だ

これがプレゼントならば・・・

厄介なプレゼントだな・・・

あの時、あんな一言を吐かなければ・・・

「はっ・・・」

そのあと彼は重大な事に気付いた。

「俺、死んじまったんだ・・・アルコール中毒で」
そのとき彼と私は同じ言葉を思いついた

「よみがえった！つて事が・・・」

これで全てつじつまが合う
凄く、オカルトだが・・・

「それに・・・なんか、身が軽いんだけど・・・痩せたのか・・・
でもよみがえったなら他人の体か・・・
つて・・・なんか胸板に突起物があるんだけど・・・」

「うっ！」冷や汗が彼から出る。

とにかく最悪なプレゼント（彼氏）だな・・・
彼には新しい体、私には彼な彼女か・・・

彼は「あれっ英語、話せてる。おかしいな」とか

体の不調を口々に言う

着る服もないし・・・

行く当てもなければ、金もない。

「彼と同居しようかな・・・」私はそう思っていた

彼が落っこちて来た（後書き）

次回予告を・・・

「同居生活・・・」

彼と同居生活をする事になったメアリー

しかし表向きには女友達・・・

それでも彼氏ができた事に満足するメアリー

メアリーは彼女の服を買いにマーケットに・・・

やがて彼女は自分と同性でありながら異性の彼の事を好きになり始める。

同居生活・・・（前書き）

次回予告と内容が少し違います。
本当に申し訳ありませんでした。

引き続き、お楽しみ下さい。

同居生活・・・

「あの・・・」

「何ですか」

彼は自分の体を撫で回しながら返事する。

「良かったら・・・同居しませんか？」

「食べ物も寝るところもお金も私には有りますから」

「いいんですか？助かります。じゃあこれ・・・」

彼は名刺を渡してくれる

日本語で書いてあるところの下に

英語表記で松下 富生と書いてある

にしても、かつこいい、女性なことは確かだが・・・
スタイルもなかなかの物だ

でも彼の胸が凄く、邪魔になっていた。

「松下さん・・・服は・・・どうします？」

「えっ、服ですか？」

「いや、胸が・・・数枚ですけど下着を」

「でも、・・・それは、下着泥棒じゃないですか？」

「じゃ、買いに行きますか？」

「お金は・・・」

「大丈夫ですよ」

「行くときは私ので我慢して下さい。」

「はい・・・」

メアリーの前で彼は裸体になる

パンツ、ブラ、ストッキングは私が履かせる。

上着も男物では緩いのでスカートを履かせる。

「出来ましたよ！」

引き出しから鏡を取って彼に見せる

「魅力的だな・・・」彼は他人でも見るかのような態度だ。

「凄く綺麗ですよ。じゃあ・・・行きましょうか」

私は勤務している会社の駅までいく

フラウンツライン
電車に乗って、

自分がよく通う店に行く・・・

「どうする？服。」

「俺、わかんないんだけど」

「そつだよ。選んであげるよ」

「助かる・・・」

メアリーはいままで女友達、彼氏は皆無だった、でも彼が来てくれたおかげですべて変わった
出会ってすぐだけど一人の女性として好きでいたいと思うし、同性の友達でもある

彼は彼女の両方の心の溝にしっかりと入ってくれていた。無意識に・

今朝、最悪とかはいつたけど・・・
彼というプレゼントは最悪じゃなかった
もう、手放せない・・・

「服、これでいいかな？」

「いいんじゃない？理想の異性かも」

その後、美容院にも連れていった

帰り道・・・

「松下君、今日だけで何回、初体験した？」
私はヘトヘトになった松下君に言う。

「もう数えきれませんよ」

「もう一つ、する？」

私は衝動の余り・・・

彼に抱きついた後、唇を重ねた

彼は少し躊躇ったものの

数秒、粘ると彼も熱いキスをしてくれた。

興奮さめやらず二人で家に帰ると・・・

今回は彼からキスをしてきてくれた。

彼はすかさずこう言い放った。

「愛してる」と・・・

同居生活・・・（後書き）

次回予告

「寒空の12月」

彼と優しいキスを重ねた

後・・・メアリーは彼をデートに誘う

場所はリンカーン植物園

寒空をよそに恋は暖かみを増す。

寒空の12月（前書き）

性転換を意識させるため

すこし、性を大きく出しました。

「ちよつと嫌い!」「もうそういうのやめて」と
思ったら評価と感想を切実に願います。

そしてPV件数が一日で700を越えました。

ありがとうございます。

感動です（泣）

読書様は神様ですね。

寒空の12月

家に帰ってもう12時間以上経つ・・・

その間は二人で裸になっていた・・・

道具を使つて遊んでいたのだ。

もちろん彼は女だから・・・同性愛かもしれないけど・・・
愛していると知ると勝手に体がそうしていた。

とにかく、彼をいい気持ちにさせてしまったのだ・・・

そういう道具は家には沢山あった
とても寂しいからだ・・・

まあ、それを彼に使うなんて思いも寄らなかった
窓に冷たい朝日が登りはじめる

「気持ちよかった・・・」彼は寢床から這いずりでる

「これから、デートしない？」

「ずーっと襲われたんだぜ・・・メアリーに。」

「いいじゃん、って・・・男でしょ！もう少し付き合つてよ」

「いまは女ですよ。で、どこでやるの」

「やっとかあゝリンカーンパーク植物園・・・」

「さてと・・・行く？」

「うん・・・あれ、なんか痛いな、」彼はトイレに入った・・・

メアリーは少し、考えて

「ちよっと下着見せて」

「えっ、メアリー何するんだよ恥ずかしいじゃないか」

「生理だね、もうちよつと様子見た方がいいよ」

彼は少し愕然としていた・・・

やはりプライドがあるよな」

「さてと、収まった？」

「なんとかね・・・女って大変だね・・・襲われるし」

「なんかいった？」

彼が準備を整えると

早速、行くこととなった

シカゴのリンカーンパーク植物園には色とりどりの植物がある市民憩いの場だ・・・

私はデートをしてもつと愛したかった・・・

だから今日、連れてきた

ここ、リンカーンパーク植物園でも有名なのが

温室で飼われる蝶だ・・・ここで本音を語ろうと思う

しかし・・・

最初に切り出したのは彼だった

「君の事が好きだ・・・愛したい、この身体でも」

でも切り返してこう言う

「蝶ってさ♂も♀個性的な観点では綺麗だけど・・・やはり♂の方が綺麗なんだって。」

それって私達なんかもそうだと思う・・・

だから気にしないで・・・身体のこととは、

それに、その松下君の美しさに私は惚れたの・・・

愛してる。」

しばらく、無言になったあと私達はまたキスをした
深い・・・どんな谷より深い。好きで居たかった
愛してた・・・もう性別も関係ない。

そのかわり後戻りは出来ない恋だ・・・

でも、後悔なんかは絶対にしない。彼がいてくれるから。

だから、いまは暖かみのある彼の唇を一人じめにしたかった。

寒空の12月（後書き）

くどいのですが

読書様には評価をお願い致します

感想と評価は適度に自信が付きますし。

改善点を洗い出すこともできます。

ぜひ、とも評価願います。

とてもワガママな作品で申し訳ないです。

後、評価欄に読書様の作品名を書き込んでいただければ搜して、見に行きますので……

CTA brown line (前書き)

次回予告忘れてました

申し訳ないです引き続きよろしく願いします

C T A b r o w n l i n e

デートが終わった翌日。

メアリーは仕事に出かける

彼女の鉄道会社はC T A b r o w n l i n eという会社である

会社に着くと

すぐに制服に着替えて仕事に入る。

「やはり、悪戯が過ぎたかな・・・」

メアリーは程遠い家をみながら。

つぶやく。この2日間ですべて変わったのだから・・・

でも彼とは接して居たかった

♀の蝶は♂の美しさにひかれたのだから・・・

彼女の家はフラートン駅というC T Aの終点駅に程遠い場所にある。

バスで数分はかかる。

だから、意外に朝からハードになる。

もちろん電車の仕事もハードだ

この列車を子供のころに見た。

摩天楼の中を針の様に高架橋伝いで走るブラウンライン。

そこには摩天楼の風が吹き。
摩天楼の太陽と青空があつた。
それが、都会の緑をさらに目立たせる。
私はやぶ大学をでた後、就職した。
後悔も無い。

私は制服を着替えたあと列車に向かう。
列車は乗客を入れ始める。

フライトンでブレーキを解除する瞬間はメアリーの仕事の始まりだ、
また摩天楼の一日が始まる。

メアリーは一昨日の業務を思い出だした。

下にいる恋人たちを嫉妬した事だ。
でも、いまは彼がいる、いてくれる。

その頃、メアリーの自宅では・・・

「あつ、メアリー、そうか仕事か・・・」
「なんか、寂しいな・・・」

「あれっ、なんか手紙がある」

「えっと・・・あなたの体を男にしましょうか?!」
神様より・・・」
ただし7日間。

これを見て彼は驚いた。
でもメアリーに話さなければ。
それと男になつた写真も同封させられていた。

「双子・・・みたいだな」

CTA brown line (後書き)

次回予告

男になることを相談した彼・・・

そして、私は気づいてしまう

彼が女性化していることを・・・

彼を好きで居たかったが、彼は昔の私と同じように彼が欲しくなっていた。

第六話 「神様へ返事を・・・」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8074f/>

ブラウライン ～空から舞い降りた天使（プレゼント）～

2010年10月9日20時47分発行